

これまで独学で対応してきたところを、体系的に学ぶことができました。

弊社は菓子の製造・販売を行っており、私は施設と工場設備の保全業務を担当しています。多くのお客様へ商品を安定して供給するため、生産を止めることはできませんが、現場では長年使用している設備も多く、突発的なトラブルへの対応力が求められます。そのため、日々知識と技術の向上に努めながら業務に取り組んでいます。

これまで PLC の操作については独学で対応してきましたが、電氣的トラブルに対して体系的な理解が不足しており、対応に限界を感じていました。そこで、ポリテクセンター滋賀が実施する「電気系保全の実践技術」を受講しました。



受講者 押 七土さん

実習の中で実務では再現が難しい状況を体験することで、トラブルの見方や考え方をより深く理解することができました。

本セミナーでは、保全業務の考え方に加え、配電方式や感電防止といった安全面の重要性、さらに制御機器に生じる不良要因や欠陥の種類について整理して学ぶことができました。

また、リレーや制御回路の故障診断についても、実習を通じて理解を深めることができました。特に印象に残っているのは、回路を組む実習の中で、ショートさせてしまったことです。実務では再現が難しい状況を体験することで、トラブルの見方や考え方をより深く理解することができました。加えて、回路図を基に配線や機器の動作を確認する力も身につけることができました。

今回の学びを活かし、今後は電氣的トラブルの予防と早期対応に努めるとともに、設備の安定稼働を支える保全業務の質をさらに高めていきたいと考えています。

電氣的なトラブルへの対応については、押さんに非常に期待しています。現在は保全業務を中心に担当していますが、今後は新たなラインの立ち上げなどにも関わってほしいと考えています。自ら学ぶ意欲が高いので、今後も必要に応じて能力開発セミナーを活用していきたいです。（上司の吉川さん）



押さん（左）、上司の吉川さん（右）